多くの著名人が参加した会議です。 <http://www.leweb.co/>

議題にビットコインがありました。

<http://www.youtube.com/watch?client=mv-google&gl=JP&hl=ja&feature=related&v=gNXZKwR6Lio&nomobile=1>

BitPayを共同で設立し、CEOを勤めるAnthony Gallippiがビットコインをうまいたとえを用いて解説しています。

(1) -----------------

ビットコインはIPネットワークを介した通貨です

(2) -----------------

29:00 Mark

採掘は理解するのが難しい話題です。ビットコインのデータセンターとして捉えてみましょう。

ビザカードにしろペイパルにしろ、ネットワーク上で決済を行う仕組みにはデータセンターが不可欠です。

データセンターは取引の出所を明らかにし、取引が有効なことを確認して、順序正しく処理します。

しかし、完全に分散型のピアツーピアネットワークの場合、どこにもデータセンターを置けません。

そこで採掘の出番となります。これで誰でも、自分のパソコンをネットワークの一部として提供して、データセンターの構築に貢献できます。

分散型のコンピュータープロジェクトになります。 SETI@home（ボランティア・コンピューティングプロジェクト）などと同様ですね。ただし、処理能力の観点では今やそれらを大きく上回っています。

データセンターの担当者の役割を担う場合は、自分のパソコンの処理能力や電力を提供し、安全なネットワークが構築できるよう貢献します。

ギャンブルのシステムにもなっており、10分毎に誰かが新しく発行されたビットコインを手に入れます。

参加するのがほんの少数ならばかなりの確率でビットコインに当たります。参加者が多数に達すると、ネットワークが調整に入ります。

以上が基本的な仕組みです。

ハッシュ計算を高速に行い、かつ省電力ですむよう、より効率の良いハードウェアを設計する動きもさかんです。

だからハードウェアの側でも、多くのイノベーションが起こっています。

(3) -----------------

30:30

採掘によって通貨が流通し、かつ参加者の同意を得られやすくなります。

会計台帳のどれが優れているか意見の相違があれば、自分のパソコンを票として使う事で、自分が指示する台帳に投票できます。とても民主的なプロセスです。

2ヶ月ほど前、ブロックチェーン内に分裂が起こった事があります。2つの異なるバージョンの会計台帳が出現しました。

どうしてこんな事態が起こったのか皆が調べた結果、バグだったことがわかりました。

そこで、どちらのバージョンをより多くのユーザーが利用しているか、パソコンの処理能力の大半をどこに使用すれば、こうしたユーザーのセキュリティを確保できるか、決定する必要が出ました。

とても民主的なプロセスを経て、結果が決まっていきました。

全ては、90分で解決されました。

注意すべきは、参加者自身のお金が関わっていた点です。

通貨を自身で使っている人達です。自分のお金なので、どんな問題もすぐに解決しよう、と考えるのです。